最近のバングラデシュ情勢と日バングラデシュ関係

バングラデシュ概要　・・・・・・・・・・・・・　1

バングラデシュ政治・経済情勢・外交　・・・・・・・・・・・・　2

日バングラデシュ関係　・・・・・・・・・・・・　3

2025年4月
外務省南西アジア課

バングラデシュ人民共和国

●安定成長を持続する新興国
… 高い経済成長率、繊維分野等で日本企業進出が増加。

●穏健なイスラム教・民主主義国
…伝統的に二大政党が対峙。24年8月、政変に伴い暫定政権樹立。

●地政学的重要性
…インドとASEAN（ミャンマー）の交点に位置。

●伝統的な親日国（23年4月に「戦略的パートナー」に格上げ）
…日本は主要援助国、インフラ整備等を支援。

＊**建国**… 1947年　パキスタンの一部（東パキスタン）として独立
1971年　独立戦争を経てパキスタンから独立。
（日本は1972年2月にバングラデシュを承認。
2022年は国交樹立50周年。）

＊**人口**… 約1億7,119万人（2022年、世界銀行）
＊年齢別人口は若年層が多いピラミッド型。

＊**面積**…約14.7万km2（日本の約4割、北海道の約1．7倍）

＊**民族**…人口の多くがベンガル人（南東部を中心に少数民族が在住）

＊ **宗教**…イスラム教（約9割）、ヒンドゥー教、仏教、キリスト教

＊ **政治体制**…議院内閣制（総議席数350（女性枠50）一院制、任期5年）

＊ **GDP**…3,055億米ドル（2022年、世界銀行）
一人あたりGDP：2,688ドル(2022年、世界銀行)

＊ **GDP成長率**…7．10％（2022年度、バングラデシュ統計局）
6．94％（2021年度）、3．45％（2020年度）

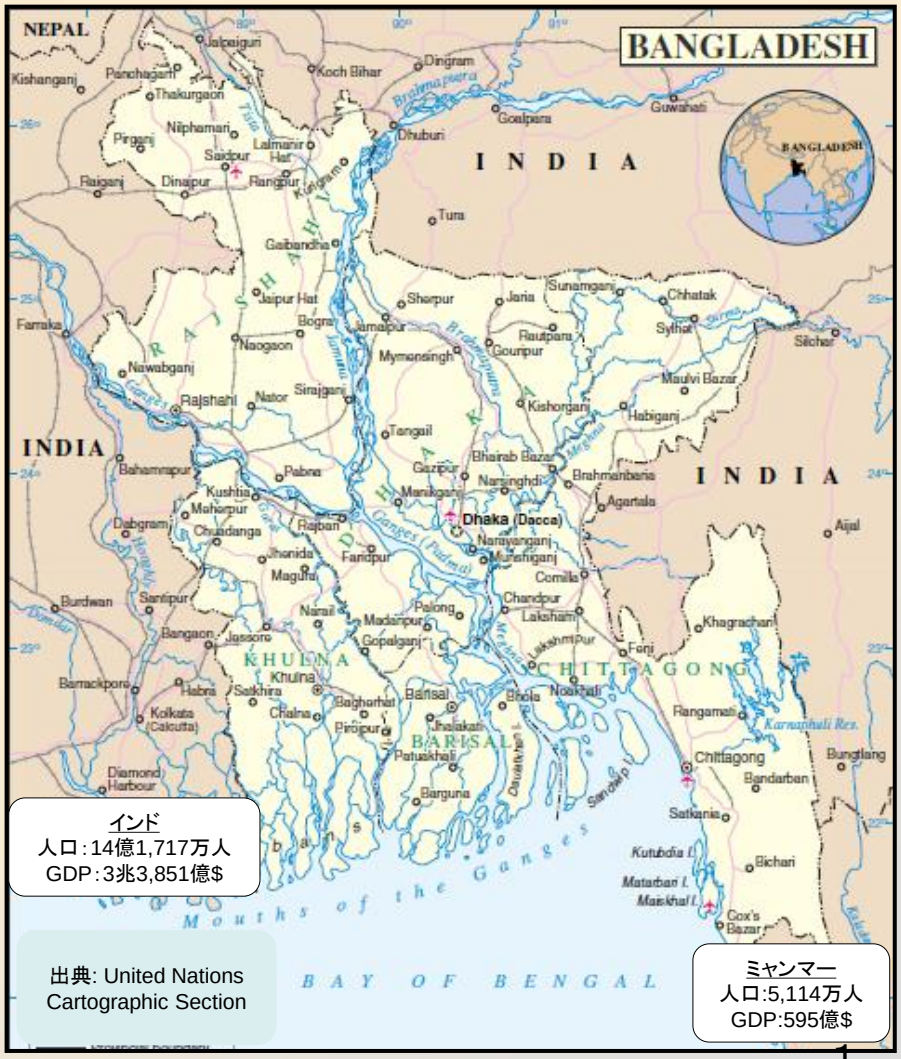
＊ **主要産業**…繊維業、農業が主産業。IT・サービス業も発展。
海外移住者・労働者からの海外送金が多い。

＊ **外交**…インド、中国、中東諸国と密接な関係。ミャンマー等近隣諸国と協調外交。
国連等国際場裡での活動は活発。

＊ **在留邦人数**…1,122人（2023年10月時点）

＊ **進出日系企業数**…302社（2022年10月時点）

＊**在日バングラデシュ人数**…24,940人（入国管理局、2023年6月）



出典: United Nations Cartographic Section

バングラデシュ政治・経済情勢

バングラデシュ政治情勢

ユヌス首席顧問
（暫定政権）

ハシナ前首相
（アワミ連盟総裁）

ジア元首相
（BNP総裁）

【議会：一院制】
定員350（うち女性枠50）。
女性枠は小選挙区での獲得議席に応じ比例配分。
暫定政権下のため、現在は解散。

＜バングラデシュ政治略史＞

1975年　ムジブル・ラーマン初代大統領暗殺
1981年　ジアウル・ラーマン大統領暗殺
1990年　エルシャド軍事政権退陣、民主化移行
1991年　総選挙、ジア政権（BNP）発足
1996年　総選挙、ハシナ政権（アワミ連盟）発足
2001年　総選挙、ジア政権（BNP連立）発足
2006年　アーメド選挙管理内閣(暫定政権）発足
2008年　総選挙、ハシナ政権（アワミ連盟）発足（09年1月～）
2014年　与党単独による総選挙でアワミ連盟圧勝（1月5日）
2018年　総選挙、ハシナ政権4期目発足（19年1月～）
2024年　総選挙、ハシナ政権5期目発足（24年1月～）
　　ハシナ首相辞任、暫定政権樹立（24年8月～）

●1971年独立後、数回のクーデター（2度の大統領暗殺含む）と軍政を経て、1991年に議院内閣制に移行。
●二大政党の対立：アワミ連盟（AL）（総裁：ハシナ首相。ムジブル・ラーマン初代大統領の娘）
　　：バングラデシュ民族主義党（BNP）（総裁：ジア元首相。ジアウル・ラーマン元大統領夫人）
●2009年に政権に復帰したハシナ政権は、好調な経済成長を実現し、開発分野での成果や国会での実質一党支配を通じ、権力基盤を着実に強化。2024年1月に最大野党BNP不参加の中、総選挙が実施され、アワミ連盟が勝利、ハシナ政権5期目発足。
●2024年8月、学生を中心とした大規模抗議活動により、ハシナ首相が辞任。モハマド・ユヌス氏を首席顧問とする暫定政権が成立。
●1990年代以降、バングラデシュと国境を接するミャンマー・ラカイン州から避難民が流入。2017年8月以降、新たに70万人以上の避難民が流入し、6年経過した現在も、ホストコミュニティの負担が高まる中、人道的観点から受け入れを継続している。

バングラデシュ経済

●保健・教育等の開発目標で目覚ましい成果を挙げたミレミアム開発目標（MDGs）実現のチャンピオン。2015年に「低中所得国」に移行（世銀による分類（一人あたりGNI1,316ドル））。国連による分類は後発開発途上国（LDC）だが、2026年卒業予定。BRICSに続く新興経済圏（ネクスト11）の一つ。
●輸出は過去10年で約2倍に拡大し、大半が欧米向けの衣料品。輸入は中印からの石油製品、綿・綿製品や機械等。大幅な貿易赤字を海外移住者・労働者からの送金で補填（2022年度：約332億ドル）。
　主要貿易品目：【輸出】縫製品（ニット含む）（85.0%）、繊維類、皮革・皮革製品、魚介類　【輸入】鉱物石油製品、綿花、原子炉・機械、肥料、鉄鋼品
　主要貿易相手国：【輸出】米国、ドイツ、英国、スペイン、フランス、イタリア　【輸入】中国、インド、マレーシア、インドネシア、ブラジル

バングラデシュ外交

●全方位外交で、インド・中国等近隣諸国と緊密な関係を維持。湾岸諸国ともイスラム教、海外労働者で密接な関係。
●2023年4月に独自のインド太平洋アウトルックを発表。
●南アジア地域協力連合（SAARC）の提唱国・推進国。
●国連平和維持活動(PKO)の主要要員派遣国（約6千5百人）。国際場裡では非同盟諸国(NAM）等途上国グループで活躍。

日バングラデシュ関係

概要・要人交流

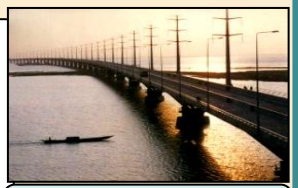
●1972年の外交関係樹立以来一貫して、我が国と友好関係を有する親日国。
　2023年4月のハシナ首相訪日時に両国関係を「包括的パートナーシップ」から「戦略的パートナーシップ」に格上げ。
（注）最近の要人往来：
【日本→バングラデシュ】2025年2月生稲外務政務官、2024年5月穂坂外務政務官、2023年10月高村外務政務官、2023年8月西村経産大臣、2023年5月髙木外務政務官、2019年7月/2018年8月/2017年11月河野外相、2014年9月安倍総理、2014年3月岸田外相など
【バングラデシュ→日本】2023年4月/2019年5月/2016年/2014年ハシナ首相、2022年4月、9月モメン外相、2019年10月ハミド大統領、2018年7月アーメド商業大臣、2018年5月アリ外務大臣、2017年5月/2016年12月ムヒト財務大臣など、閣僚等ハイレベルの訪日が継続

投資・貿易関係

●2024年3月、日・バングラデシュ経済連携協定（EPA）交渉立ち上げ。
●投資
・近年「中国プラス1」の生産拠点として注目され、日本企業の進出が増加（302社（2022年）、2011年から約3倍に増加）。
・主要業種は繊維関連、商社、物流、製造業等。2021年直接投資額は9105万米ドル（バングラデシュ中央銀行）。
・バングラデシュにおける電力・天然ガスの供給、工業用地の不足、許認可手続きの煩雑さ、高関税等が投資拡大の課題となっている。
●貿易（2023年度（バングラデシュ会計年度）（バングラデシュ銀行、輸出振興庁））
・対日輸入：2,030 百万ドル（鉄鋼、車両、一般機械等）
・対日輸出：1,901百万ドル（既製服、ニット製品、革・革製品等）

経済協力

●日本はバングラデシュにとり最大の二国間援助供与国。
●「中所得国化に向けた、貧困からの脱却と持続可能かつ公平な経済成長の加速化」の取組への支援を基本方針とし、マタバリ深海港、ダッカMRT（メトロレール）、ダッカ国際空港第三ターミナル、経済特区等、「ベンガル湾産業成長地帯（BIG-B）構想」の下での協力を推進。
●BIG-B構想の下での協力とインド北東州における開発と有機的に連結させ、「産業バリューチェーン構想」を推進（FOIPのための新プラン）。
●ロヒンギャ避難民及びホストコミュニティに対して継続的に支援。



上：日本が支援したジャムナ橋（全長4.8km）
下：ジャムナ橋をデザインした旧100タカ紙幣

我が国造幣局はバングラデシュ政府から同国通貨の製造を受託

- 2012年　2タカ（約2円）硬貨　5億枚
  （外国の一般流通貨幣製造受注は戦後初）
- 2013年　国立博物館開館100周年記念銀貨幣　4千枚
- 2022年　日・バングラデシュ外交関係樹立50周年記念銀貨幣 1万3千枚

	円借款	無償資金協力	技術協力
19年度	2,757.86	34.74	32.58
20年度	3,732.47	41.34	26.24
21年度	3,105.64	39.63	41.43
累　計	27,063.93	5,055.63	999.45

単位：億円　出典：外務省国際協力局

安全保障・防衛協力

●2023年4月以降、防衛装備品・技術移転協定締結に向けて交渉中。
●2023年11月、警備艇供与（「政府安全保障能力強化支援（OSA）」）に関する書簡を署名・交換。

国際場裡での協力

●多くの国際機関選挙・決議等で我が国を支持（日本の国連安保理常任理事国入りも支持）。核軍縮を支持。